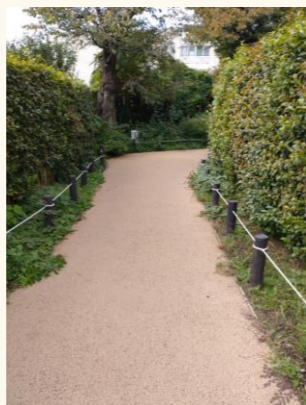


春うらら♪ 上町周辺の自然をご紹介します

万葉のこみち

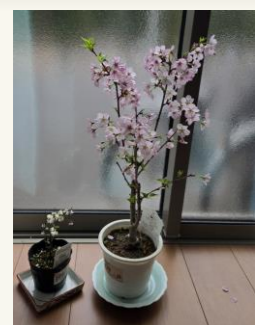
花咲きて実は成らねども長き日に
思ほゆるかも山吹の花 (作者未詳)

これは7世紀後半から8世紀後半にかけて編纂された日本に現存する最古の歌集である万葉集の中の一首です。鳥山川の遊歩道の一部(宮坂1丁目)に、万葉集ゆかりの草木を植えた小径があり、行ってみました。この歌は山吹(ヤ



マブキ)ですが、他にも橘(タチバナ)や馬酔木(アセビ)、三枝(ミツマタ)などが歌と共に見られます。これらの植物は衣類用(アサ、フジ)や染色用(ムラサキ、ベニバナ)、食用(クリ、カキ)、薬用(ショウブ、クズ)など生活の中で利用されていたそうで、昔の人々の工夫や知恵に触れる機会になりました。

残念ながら、花の咲く季節ではありませんでしたが、穏やかな空気の中を歩き、万葉の頃に思いを馳せる時間になりました。(東町会 K・T)



「花見客の喧騒を尻目に家の中でお花見が出来たら最高!」と小さいですが山桜の鉢植えを買って楽しみました。ささやかな桜でも自然と笑顔になります。多くの日本人にとって桜は原風景なのかもしれませんね。(弦巻町会 K・S)

向天神橋交差点
弦巻通り沿いに咲いたハナミズキ

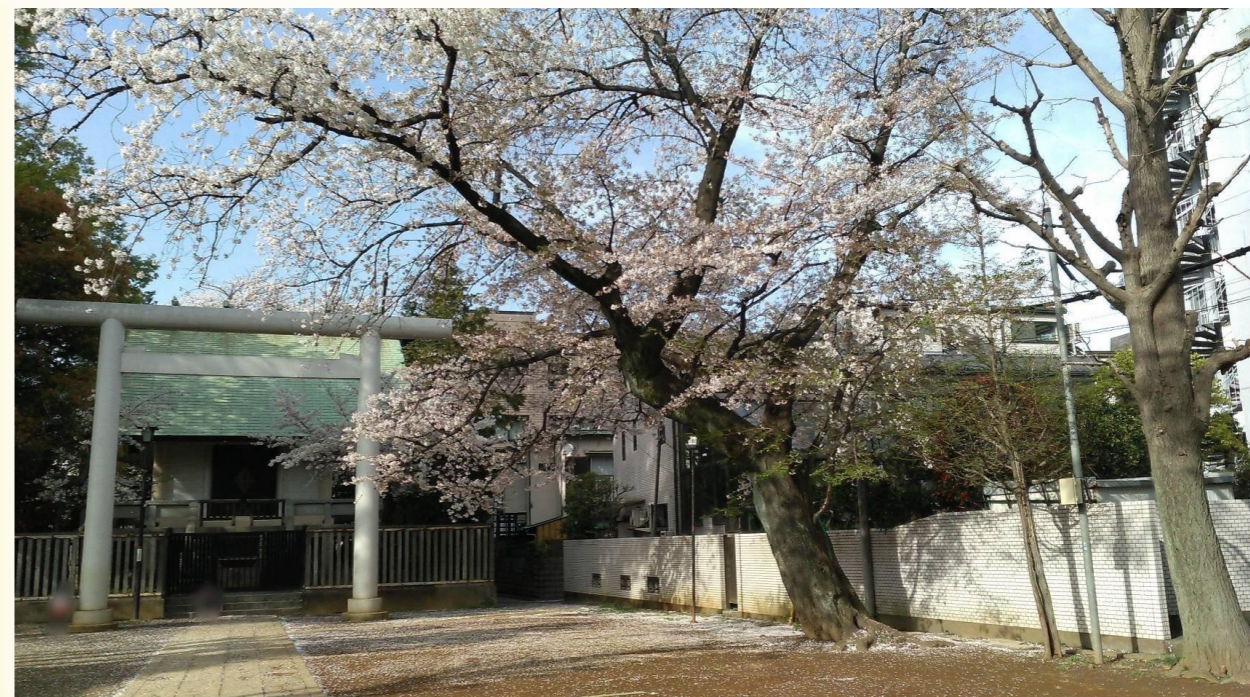


(弦巻町会 M・A)



駒沢給水塔から
キャロットタワーまでの一本道

マンション
パークシティ弦巻前の桜並木



天祖神社の桜と紅葉

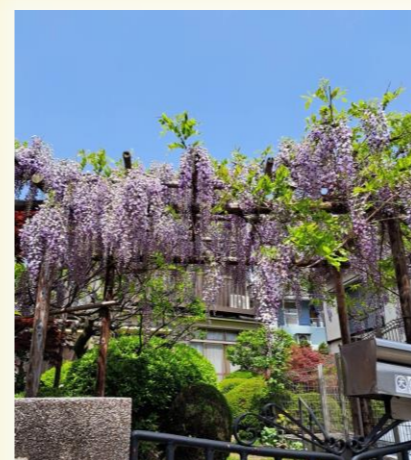
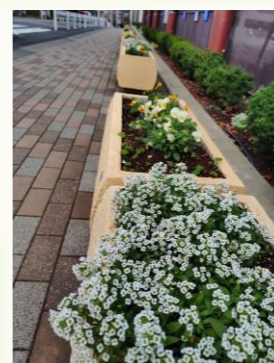
世田谷区の桜といえば、砧公園の桜が有名ですが、上町地区の氏神様として天照大神が祀られている天祖神社には、樹齢百年になると思われる桜の木があります。満開の桜の下では近隣の方々が、お酒を酌み交わし交流を深めている和やかな風景を目にします。また、ハラハ

ラと散る花びらの下で小さな子ども達が遊んでいる穏やかな様子には心が癒されます。

紅葉の時期が過ぎると、あたり一面黄色のじゅうたんにおおわれます。昔は集めた落ち葉でたき火をし、暖をとりながら焼きいもをおいしくいただいたものです。

(上町町会 Y・S)

桜小学校赤門前の通り沿いにつづく「さくら花の小径」は年2回児童らの手で植え替えられ、大切に育てられています。(2丁目町会 M・W)



満開のソメイヨシノの花びらが舞う頃に藤の花のツボミが膨らみはじめます。散歩道、家々の庭の花を楽しんでいると、数年前に道路際にできた藤棚が年々見事に咲き誇るようになりました。(桜町会 M・I)

ふれあいひろば

第131号

F	T	事務	発行
A	E	局	日
X	L		
0	0	上文化	令和
3	3	町ま	8年
・	・	ちま	4月
5	3	ちづ	1日
4	4	くり	
7	2	りセ	
7	0	ンタ	
・	・	ー	
7	4		
9	2		
2	4		
0	1		



ふれあいひろばHP

上町を通る大山街道と世田谷通り—二つの道が交わらなかった理由をたどる—

前回紹介した上町地区を通る大山街道の地図を見てお気づきになった方はいるかもしれない。実際に歩いてみるとわかるのだが、ひととき不思議な場所がある。ポロ市通りから南へ進み、用賀方面へ抜ける角。古くからの大山街道と、後に整備された世田谷通りが交わるようで交わらない。まるで時代がすれ違ったかのように、二つの道は微妙にずれて走っている。

前回ご紹介したように大山街道は、江戸時代から人々が相州大山（現在の伊勢原市）へ参詣するために通った道、上町の「ポロ市通り」は、まさにその古道の一部である。江戸の人々が草鞋を履き、道端の茶屋で一服しながら通った風景がここにあった。道は地形に合わせ、川や谷を避け、自然と人の暮らしのリズムに合わせてきた「生活の道」だった。

一方、世田谷通りは大正末期から昭和初期にかけて整備された新しい幹線道路だ。東京から厚木方面へ、自動車が走れる「直線的な道」として計画された。近代的な都市設計の発想で作られたため、地形や旧集落の形にはあまり縛られていない。



上町の辺りでは、この“直線の世田谷通り”が、くねる大山街道を一望するように北側を通り抜けていく。つまり、時代も目的も異なる二つの道が、同じ土地を走りながらも重ならなかったのだ。ポロ市通りから用賀方面に折れるあの角。大山街道が「人の足で刻まれた道」だったのに対し、世田谷通りは「車輪が描いた直線」なのである。このわずかなズレは時代のズレでもあり「交通手段の違い」さらに言えば「人と街との距離感の変化」なのである。

この場所では「江戸の道」と「近代の道」が数十メートルという距離で共存している。その間には300年もの時間の層が折り重なっているのだ。そのズレを感じながら歩くと、上町の景色が少し違って見える。実際に歩いてみると「道の重なり方」に、その歴史が静かに刻まれているのを感じていただけるに違いない。（松丘町会 A・M）

上町地区ごみ減量・リサイクル推進委員会 研修会を実施しました。

令和7年10月21日（火）に世田谷清掃工場と資源循環センター リセタを見学させていただきました！

▼研修会の様子



なにげなく出しているごみの処理に多大な手間とコストがかかっているのが理解できました。

地球温暖化を抑えるために、一人ひとりがごみの処理の仕方などを少しでも日々注意していくことが大切だと感じました。

（ごみ減量・リサイクル推進委員会 一同）

今回の研修会でごみの回収から分別、焼却、埋め立てまでを見学でき、毎日の生活の中での意識を各家庭であらためなければと思いました。

ごみを決められたルールで出している！と自負していましたが、そうではなかったと知ることがいっぱい、参加して良かったです。

少しでもごみを減らすことで清掃工場を長く使うことができると知りました。

上町地区イベントカレンダー（令和8年度）

6月6日（土）	上町地区古着古布回収	上町管内7か所
6月6日（土）	フードドライブ	上町まちづくりセンター
7月上旬	夏の寄せ植え講習会	上町まちづくりセンター
7月4日（土）・5日（日）	ホテル祭りとサギ草市	代官屋敷
8月下旬	フードドライブ	上町まちづくりセンター
8月24日（月）	第63回子ども大会	上町児童館※

※今回は、けやき広場ではなく、上町児童館での開催予定です。

発行日現在の予定です。参加申し込み日などは区のおしらせ（毎月25日号）をご覧ください。



▲区のおしらせ「せたがや」バックナンバーHP

上町地区のミニコミ紙「ふれあいひろば」はHPからもダウンロードできます。<https://www.city.setagaya.lg.jp/01009/11136.html>

文豪と彫刻家〈2〉

〈前号から続く〉余談ですが、2019年に、関西一人旅で高月町に行ってきました。琵琶湖畔一周の汽車巡りは、晴れ、曇り、雨、みぞれ、曇りから晴れと目まぐるしく天気が変わり、高月町ではあいにくの雨模様。駅に降り立ったときに井上靖記念室があることを知り、図書館にも寄りました。あいにく記念室は休館で拝見できず残念でした。私は、奈良の神社仏閣巡りや仏像拝観を不定期に行っていて、その一環でお目当ての、渡岸寺観音堂に安置されている国宝十一面観音を堂内一人、360度ゆっくり拝観し、観音堂境内にある井上靖さんの文学碑「慈眼 秋風 湖北の寺」も見してきました。この観音さまは私が最も崇高で綺麗だと思っている仏像の一つで、『星と祭』を読んでいたことが出会うきっかけでした。堪能できて満足しきっていたことと雨



滋賀県長浜市の高月駅舎



滋賀県長浜市境内の渡岸寺観音堂に文豪井上靖さんの文学碑

が災いし、図書館前の文学碑と彫像には会わずじまいでした。

閑話休題、三つ目。井上靖さんについて、御子息の修一さんに、『ご存知でしょうか？ ～世田谷区と井上靖～』という題で記事をいただき、「ふれあいひろば 第116号」（令和3年4月1日発行）に、桜3丁目にある旧居宅跡の文学碑の写真とともに掲載しました。実は、舟越保武さんも上町地区に住んでおられたのです。井上靖さんが1957年（昭和32年）から、舟越保武さんが1951年（昭和26年）から居住されていました。忙しすぎたお二人ですが、新聞小説についてのお話だけではなく、お宅を往き来されたり、道端で会話をされたりしたことがあったのではないかと勝手に思っています。



旧居跡の文学碑

井上靖さんの作品は学生時代に読み始めて、自伝小説や西域小説など数多くの小説を愛読してきました。舟越保武さんの作品については、彫刻作品を身近で拝見しましたし、画集やテレビでも見してきました。このようにまとめられたことは、日本を代表するお二人がとても身近な存在に感じられて、楽しいひとときでした。（弦巻町会 M・A）

あとがき

「ふれあいひろば」に携わって、自分の暮らすまちのさまざまな営みが、思いがけないほど多くの人たちの労力と愛情に支えられていることを改めて知ることになりました。あたりまえのようにこのまちにあるものが、誰かのていねいな手と目によって作られていることを、これからも紙面を通じてお伝えしていければと思っています。今号の連載・特集記事もどうぞお楽しみください。

（2丁目町会 M・W）

日赤上町分団からのお知らせ

令和8年5月1日（金）より日赤活動資金募集を実施します。皆様のご支援、ご協力よろしくお願いたします。

編集委員
網敷光剛
伊藤美登里
奥本美和
小松正佳
椎谷恵子
鈴木陽子
高口徹生
立石かほる
村内敦保
渡辺美保